

研究課題名	集中治療室におけるリハビリテーションプロトコール導入の効果検証
研究機関名	武蔵野赤十字病院
研究責任者	所属：武蔵野赤十字病院 リハビリテーション科 氏名：多田祐人
研究期間	(西暦) 2022年4月～2022年9月
研究の意義・目的	人工呼吸器離脱困難例は在院日数の長期化による医療費増加や、ADL・QOL低下による介護負担や社会資源の逼迫に影響するとされます。ICU入室中のプロトコール下でのリハビリテーション・早期離床によって人工呼吸器装着期間の短縮や転退院時のADL改善が促進され、ICU退室後の医療・介護負担の軽減の一助になることが期待されます。 当院では2020年9月に集中治療室リハビリテーションプロトコールを策定し、人工呼吸器装着例に対してより積極的なリハビリテーションを開始しました。本研究の目的はプロトコール導入によって人工呼吸器装着日数の短縮に寄与したかを調査することです。
研究の方法 (対象期間含む)	当院ICUで人工呼吸器装着中にリハビリが開始された重症例を後ろ向きに登録し、診療録から調査項目を収集します。人工呼吸器装着日数、ICUでのリハビリテーションや人工呼吸器管理の状況、ICU退室時と転退院時の状況について調査します。 ・研究対象期間：2019年9月～2021年3月
①試料・情報の利用 目的及び利用方法 (匿名加工する場合や 他機関へ提供される場 合はその方法含む) ②利用し、又は提供す る試料・情報の項目 ③利用する者の範囲 ④試料・情報の管理 について責任を有す る者の氏名又は名称	① 利用目的：本研究の結果については個人が特定されないように統計処理を行った上で、関連する学会で報告する。 利用方法：研究に係る情報は個人を識別できる記述等（名前、ID、生年月日等）を削除し、匿名化された情報から個人が識別されない形で使用。また、研究等に係る情報は5年間厳重に保管し、その情報は本研究以外には用いない。保管期間終了後、研究対象個人が特定されない状態で破棄する。 ②年齢、性別、clinical frailty scale、BMI、APACHE II score、敗血症・外科治療の有無、診断カテゴリー、Charlson Comorbidity index、人工呼吸器装着日数、気管切開・再挿管の有無、転退院時の人工呼吸器装着の有無、リハビリテーション処方日・開始日、離床実施の有無、ICU在室日数、在院日数、転帰、Functional Status Score for the ICU、Medical Research Council score、modified Rankin Scale ③武蔵野赤十字病院 リハビリテーション科 医師・理学療法士 ④武蔵野赤十字病院 リハビリテーション科 多田祐人
問合せ先	当研究に自分の試料・情報利用を停止する場合等のお問い合わせ 〒180-8610 東京都武蔵野市境南町1-26-1 武蔵野赤十字病院 所属：リハビリテーション科 氏名：多田祐人 TEL：0422-32-3111（代表）6812（事務局内線） FAX：0422-32-3525